

加西病院の充実について

一般質問



森元 清蔵
(21 政会)

- 問** 病院長にお尋ねする。
①国の病院再編の方向性は。
- ②県内の病院再編の動きは、加西病院にどう影響しているのか。
- ③加西病院の経営状況は。
- ④クレーマーもあり、医師や看護師が消耗していると聞か、今後加西病院の充実は何が必要か。また、市民にこうあってほしいということは何か。
- ⑤加西病院が優れているところはどこか。

- 答** ①在宅の看取りと急性期医療を行う病院の機能再編の2つの流れです。大学病院を除く一般的な病院は、高度急性期、一般急性期、亜急性期、介護療養と機能分類され、加西病院は、一般急性期の中でより急性期の機能を持った病院を目指す考えです。急性期医療とは、急性心筋梗塞等のすぐに治療が必要なものと、高度な医療を行うものです。そのためには、医療者を集め、レベルの高い医療を行うことが不可欠です。
- ②北播磨圏域では、北播磨総合医療センター、西脇市民病院、加西病院が競合する形となり、病院の充実には、病院の努力はもとより、市民や議会の理解等も大きな意味を持つと感じています。
- ③収支上の経営は苦しい状態ですが、人材招聘、人材育成は頑張っており、よい医療を行おうという

- モチベーションについては優れていると認識しています。
- ④最近は理不尽な攻撃が目立つようになっています。病院や医療への正しい理解を持ち、地域の医療体制を維持していくための条例等が必要と感じています。また、病院の機能改善、職員の能力向上に使える繰入金も心強い支援です。市民には、退院調整への協力や、医療の持つ限界や不確実性等についての認識を深めていただきたいと願っています。
- ⑤外科の腹腔鏡手術、眼科と耳鼻科が協力して行う涙嚢等の手術、看護部のうつ伏せ療法、循環器内科の血管形成術、消化器内科の内視鏡手術等の優れた医療が実践され、他の病院からも評価されています。

鳥獣被害（シカ）対策（Ⅱ）について

一般質問



織部 徹
(21 政会)

- 問** 6月議会では、防護柵や猟友会による駆除に加えて里山整備について聞いたが、北部の町でのモデル的研究の進捗状況は。
- 答** 防護柵、捕獲により絶対数を減らすこと、それに加えて地域ぐるみで学習、予防が効果的という考えのもと、モデル町を設置して進めたいと申し上げました。進捗状況は、6月25日に集落ぐるみで取り組む野生動物対策について、県加東農林事務所より地元説明会が開催され、シカ・イノシシの食べ物、運動能力、知能、行動特性や、被害作物や被害圃場等、被害状況を調査して被害マップを

- つくる等の手法について説明がありました。地域住民の皆様に理解を求めた段階です。
- 問** 実際に研究はあまり進んでいないと感じる。予算はつかず、研究に人を派遣するだけにとどまり、地元の力によることになっている。実際に実行するために予算が必要。山を抱える現場は、高齢化が進み、労力も少なくなっている。バッファゾーンをつくることや、里山に近い形にすることにより、防護柵と駆除以外に効果があると思うが、予算についてはどうか。
- 答** 里山整備補助事業については、平成21年度から1件10万円3カ年という制度ですが、十分な補助でないことは認識しています。県の里山防災林整備事業並びに野生動物育成林整備事業が採択になれば、バッファゾーンの整備は前に進むと思いますが、この事

- 業は採択数も少なく、モデル実績を踏まえて今後県に要望を続ける考えです。
- 問** 村で整備するにしても、高齢化しており、いづらか予算をつけないと解決しない。勉強会を受けたところには里山整備の分を優先的にもってくる等、予算をつけることはできないか。市長の考えは。
- 答** ふるさと夏ミーティングを回ったどの会場でも獣害対策について有効な手立てを講じてほしいという強い声を受けた。駆除すること、防護柵を講じること、里山整備をすること等、問題点を教えていただき、研究してモデル事業が有効に働くような手立てを検討したい。
- その他の質問項目
- ・病院への苦情状況について

防災について

一般質問



井上 芳弘
(日本共産党)

- 問** 高齢者、障がい者の方の要援護者台帳の整備が進められてきたと思う。具体的に地域も含めてどう支援して避難するか検討されなければならないと思うが、その状況は。
- 答** 高齢者、障がい者の対応については、個人情報保護の観点から、ようやく昨年度より台帳整備が同意方式のもと整備され、健康福祉部、社会福祉協議会等と協力しながら、24年1月末で1,431名の登録をいただきました。その方々には、民生委員、自主防災組織、消防、警察等に情報提供する同意を得ていますが、個々に災害

- 時の安否確認、避難支援計画等が確立できていない状況で、まだまだ入口に入ったところという状況です。
- 問** 防災計画の議論の中でも具体化の議論を始めていただき、防災の問題ではあるが、地域コミュニティの問題でもあるので、総合的に進めていただきたい。続いて、震災があれば廃屋が倒れ、避難ルートが変わってしまう等、いろんな場合が考えられる。弱者対応も含め、本当に避難経路の安全が保たれるかも具体的に検証しておく必要があるのではないかと。
- 答** 今回防災マップを地域と共同でつくっていく中で、避難場所への問題点等も地域から検討していただくことを考えています。空き家、廃屋対策については、経路点検の中で危険防止を図る意味でも自主防災組織と協働で取り組

- む考えです。
- 問** 防災に関わっては防災ネット等が使われている。また、各町の努力等で無線設備の設置等が進められている。緊急防災減災事業債の制度を複数年にわたり利用することは、市にとって有効だと思うが、防災無線等に使うことは可能か。
- 答** 多重な伝達手段を持つことは防災対策の基本です。現在、加西市は防災ネットや各種携帯電話会社におけるエリア的な伝達を主眼とした対応をしています。全町的な防災無線については非常に金額が高く、まだまだ研究が必要です。
- その他の質問項目
- ・保育、幼児教育について
・再生エネルギー普及について
・住宅施策について

議員報酬について

加西市の厳しい財政状況に少しでも協力するため、期末手当から独自カットを行ってきましたが、条例が本年6月30日で期限を迎えたことから、6月定例議会の最終日に全議員で構成する議員報酬等検討特別委員会（土本昌幸委員長）を設置し、議員報酬等の今後のあり方について検討を進めてきました。

- （委員会で述べられた意見）
- 近隣市に比べ当市の財政状況が厳しい中、今後学校改修等に多額の投資的経費が必要となり、さらに財政状況が厳しくなると想定されることから、これまでのカット以上の削減を行うべき。
 - 市長以下執行者においても、給与や手当のカットを行っており、賛成してきた議会として姿勢を示すべき。
 - 議員の活動は本会議や委員会以外も多く、4年ごとに審判を受けなければならないため、決して報酬は高くない。
 - 加西市の議員定数や議員報酬は県下でも低く、現状で議員としての活動で貢献していくべき。
 - 誰でも選挙に出られるだけの報酬額は維持すべき。
 - 議会としてのコストを下げるのであれば、定数減によって行うべき。
 - 報酬審議会への諮問を要望すべき。
 - 減額分については人口増対策等の目的を設定して使用してもらいたい。

委員会では、期末手当から0.45カ月分（年間3.5カ月支給）をカットする案が賛成多数で決定されました。本会議では、委員会で決定された案（条例案第4号）以外に、月額報酬の10%を削減する案（条例案第3号）も提案されましたが、採決の結果、条例案第4号が可決されました。（期限は平成24年10月1日から1年間）

■本会議での議決結果（採決の行われた順に掲載） ○…賛成 ×…反対

議 案	井上芳弘	土本昌幸	別府直	深田真史	植田通孝	中右憲利	長田謙一	衣笠利則	松尾幸宏	黒田秀一	織部徹	森元清蔵	三宅利弘	高橋佐代子	森田博美	議 決 結 果
条例案第3号 議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	○	×	○	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	議長	原 案 否 決 (賛4、反10)
条例案第4号 議会の議員の議員報酬の特例に関する条例の制定について	×	○	×	×	×	○	○	○	○	×	○	○	○	○	議長	原 案 可 決 (賛9、反5)